

碑法帖拾遺 ⑥

木 雞 室

木 雞 室

伊 藤 滋

東 方 朔 画 賛 碑  
とう ほう さく が さん ひ

754年  
(唐・天宝13年)



多宝塔碑(部分)

漢の武帝に仕えた東方朔なる武人を讃える文を後の晋時代の夏侯湛(かこうたん)が著した。歴代の名文であり、書聖・王羲之も小楷で書いたと伝えられる。小楷の法帖として明清時代の法帖全集などに載せられている。この東方朔を祀る廟に顔真卿もやや大きめの楷書で東方朔画賛の文を書き碑を建て

たと伝えられる。碑陰にはこの碑を建てた由来が書かれている。顔真卿の壮年の碑である。有名な「多宝塔碑」(たほうとうひ)の2年後である。前回の「顔氏家廟碑」のもつ顔法的な筆使いは見られない。やはり「多宝塔碑」の書風に近い。しかし碑陰の書風は碑陽よりも字画も少し太くなり伸びやか筆致である。碑陰の文字は余白が無くなるくらいに目一杯に書いている。現在の相撲の番付などに使われている文字に共通する風である。後の顔法の趣を少し見ることが出来る。

碑陽と碑陰の字画の太さの比較

碑 陽



碑 陰



碑陽卷頭



# 書道芸術院 平成の書 (2008)



「愛」

150×192cm



村野大仙

（財）書道芸術院  
名誉顧問

平成生まれの子供が成人に……。時代の推移を実感する。戦後の荒廃しきった社会の中から立ち上がり、悪条件の中で書道界の再建に尽くされた先輩の功績は計り知れないものがある。それは組織の問題もさることながら、忘れてならないのは書作家としての自覚に基づく自己研鑽と書芸術の価値高揚の尊い研究活動が原動力となって今日の隆盛をみることである。血のじむ様な努力で荒地地を歩みながら、そこに美しい道を残してこられた先達に深い敬意を抱くものである。

燃え過ぎる情熱を傾むけて築き上げられた現世の書道界に活動基盤を置く次世代に、時たま警鐘を鳴らす識者の声を聞くことがある。私自身、実に耳が痛い。怠惰な書人生は痛恨の極みである。しかし、ここであきらめる訳にはいかない。残る人生にどれだけのことが出来るか誠心細い限りであるが最善を尽くすのみである。

新鮮な表現で多くの人々に感動を与えることは素晴らしいことであるが、書作家たる者は、書の根源である線の骨格を忘れ失うことを厳に戒め、これを肝に命じて歩みたいものである。

写真作品は2002年、秋の個展出品作『愛』。(武蔵野市吉祥寺美術館所蔵)

乳がん闘病中の娘への贈りものと思って開いたが、最終日の早朝他界、祝賀会が終わるまで見守ってもらったの別離。実際に見てもらえなかったことは無念であったが、忘れ得ぬ一作である。

# 書のひろば

理事長 恩地春洋

## 第60回毎日書道展と

### 記念事業の概要

#### 1、国際書壇代表作家招待展

招待 中国、シンガポール、韓国、台湾、マレーシア

#### 代表団の日程

- 7/10 来日
- 7/11 招待展、日中女流展
- 7/12 見学、功労者表彰参加
- 7/13 毎日表彰式参加
- 帰国

#### 2、荊州博物館長王明欽先生講演会と

ワークショップ

- 7/24 来日
- 7/26 講演会 国立新美術館
- 7/27 1000 ワークショップ
- 7/29 帰国

#### 3、第二回日中女流書道家代表作家展

- 会期 7月8日(火)～17日(木)
- 開幕 7/8 東京都美術館
- 1000開幕式・揮毫会・1230祝賀会
- 訪日代表团 約80名

※(中国・四川省大震災の為に来日自粛との情報)

#### 4、功労者表彰

・56回展から60回展の5年間の経歴から4項について66名を選考した

・他に学術関係・財団関係

上平 貢、加藤達成、小松茂美、西林昭一、松丸道雄 (学術関係)

川村恒明、藤田陸奥麿 (財団関係)

表彰式・式典 7月11日(金)

17:00 表彰式 グランドプリンスホテル森

17:30 記念式典 同

#### 5、毎日現代書巡回展(12会場)

- 神奈川展 3/28～4/6 横浜そごう美術館
- 岡山展 4/15～4/20 岡山天神山プラザ
- 高知展 4/22～4/27 高知市文化プラザ
- 奈良展 6/4～6/8 奈良県文化会館
- 鹿児島展 7/15～7/21 歴史資料センター
- 静岡展 8/5～8/10 静岡県立美術館
- 長野展 9/19～9/21 松本文化会館
- 旭川展 10/13～10/16 道立旭川美術館
- 盛岡展 11/12～11/16 市民文化ホール
- 秋田展 11/21～11/26 秋田総合文化会館
- 豊橋展 1/20～1/25 豊橋市美術館
- 沖縄展 3/24～3/29 沖縄県立美術館

#### 6、日本人ブラジル移住100周年記念

「現代日本の書代表作家サンパウロ展」

- 会期 10月14日～11月9日
- 会場 サンパウロ美術館
- 開幕式 10/21(火) PM 7時
- 祝賀会 10/22(水) 正午
- 出品者 一五〇名(内物故者29名)

#### 7、現代日本の書代表作家台北展

会期 9月28日(日)～10月8日(水)

会場 国立国父記念館

セレモニー 10月3日(金)

午前 テープカット

14:30 シンポジウム

席上揮毫

18:30 祝賀会

〔特別見学〕

故宮博物院で「晋唐法書名蹟展」

を公開前、特別内覧会に開放してくれます。(快雪時晴帖、書譜、祭姪文稿、自叙帖など)

8、毎日書道図書館設立

#### 8、毎日書道図書館設立

本邦初の書道関係専門図書館を開設し、広く書道界に開放して、我が国書道とその研究の進展に資すると共に書道関係図書を保存することを目的とする。

蒐集方法

- ・年間予算で基本図書購入(選考委員)・出版社、書道団体の協力
- ・個人からの寄贈による
- ・蔵書と閲覧

・毎日新聞東京本社(パレスサイドビル)1Fに閲覧室、地下に書庫を設置する。・図書館主任を採用

#### 9、第8回国際書法交流大展訪中

- 期日 6月27日～29日
- 6/27 北京に入る
- 6/28 開幕式、国際会議
- 6/29 国際会議 午後帰国

10、企画委員、事業企画委員の任期を平成21年3月31日まで延長する

11、「北京故宮 書の名宝展」開催

会期 7月15日(火)～9月15日(祝)

会場 江戸東京博物館

出展 王羲之「蘭亭序」八柱第三本(神龍半印本)ほか名品65点

12、その他

- ・来年度 干支切手揮毫者10名(既報)
- ・同 百人一首揮毫者 (同)
- ・2009「現代の書新春展」

セントラル100人は60歳以下

選考は本年度毎日展作品から

・第23回「中国へ書の研修団」派遣

選考は7月18日の予定

各別別研究会の発足

本院は、13の総局、支局と、5つの部で構成されている。財団の基礎となる各地域での活動を中心とする総局、支局は、総・支局長会議によって共通認識を心がけている。

今回は、芸術団体として最も大切な発表作品の向上を旨として、漢字、かな、現代詩文書、篆刻・刻字、前衛書の各部研究を推進するために発足した。第1回は、各部の実情を話し合い今後の研究方法を探索することにした。研究会がうまく機能することを期待している。

## 前衛書 (三)

三 森 慧 香

映画とくれば、次は陶芸につなげた。それも、その肌面に触れたい。作意による諸々の表現や偶然と思わせる作者の計算された必然に出合うと興奮する。なぜなら、自分もそこに立脚したいという欲が騒ぎ立つからである。陶芸にはとても世話になった。肌面に



第3回聲香会展2000年  
三森慧香書



「作品2008-3」 35×23cm

三森慧香書

描かれたデザインがそのまま私のモチーフになった時期がある。私に対しては、陶芸の世界が、絵画よりもストリートに刺激した。理由はたぶんに、自分の技量でマネしやすかったからだと思う。

淡墨の作品は、墨と水の割り合いによるが、時間を経て作品が乾くと、当初あった墨の重なりが作る深みはなくなり、単調な線だけの作品に見えてしまう。だから、スケールの大きさは問えなくなる。やはり偶然と思わせる作者の必然的技量は、時々段階にも必要であるから、段階別に学ぶべき事柄は必ず手の内におきたい。それによって、

淡墨の不思議な世界への入り込みを可能とし、その魅力に触れるのではないかと。

## 21世紀の書

### — 私 の 主 張 —

## 漢字 (三)

有 野 琤 扇

個展  
「from the UNIVERSE」  
(3)

— 作品制作① —

満天の星空を眺めていると、それは何百万光年、何億光年もかかっ

て届いた光だということに、限らないロマンと感動を覚えます。

「光年」は、その感動を金文の造形に託して制作したものです。「年」の一面を長く「光」を貫くように、光速のスピード感と、光すら曲がるという宇宙の広大さを表現してみました。閃光のように鋭く、一本の線を書く難しさを身に浸みて感じた作品です。この文字を案内状と作品集のデザインに使用しました。

「天地創造」は、混沌とした原始地球に天地が生まれていく凄まじい様を想像し、濃墨で大作に挑戦したものです。無心で白い空間と対峙した時、自然に筆が走り、跳ね、墨痕が生き物のように生まれていく。何かに突き動かされるような、今まで感じたことのない体験でした。師、小伏竹村先生が言われたように、神がついてくれたのかもしれません。これも会をあげての協力があつた賜物だと思います。



「天地創造」

120×360cm  
有野琤扇書



「光年」

120×240cm  
有野琤扇書

用紙 半紙普通判

|| 注 ||

漢字研究部競書作品は、左の法帖の中から何文字臨書してもよい。(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる  
署名、もしくは  
○○臨  
(押印のみ可)



王有盛徳大業者必見子歌頌

〔解説〕 大唐中興頌は、涪溪にある摩崖碑で、高さ16・6cm、幅422・3cm、21行、行25字の巨大なもので、摩崖刻中の最大のもたとされる。勿論、顔書としても字径は最大。摩崖となると、大自然に書を刻むという意識が働くせいか、気宇雄大な優れた書が遺されている。

顔真卿という人間の内的世界は、並外れた凝集力と拡がりを持っているのだろう。字画の単純な字を、これだけ見事に表現できる、その力量と人間性に果てしない魅力を感じる。

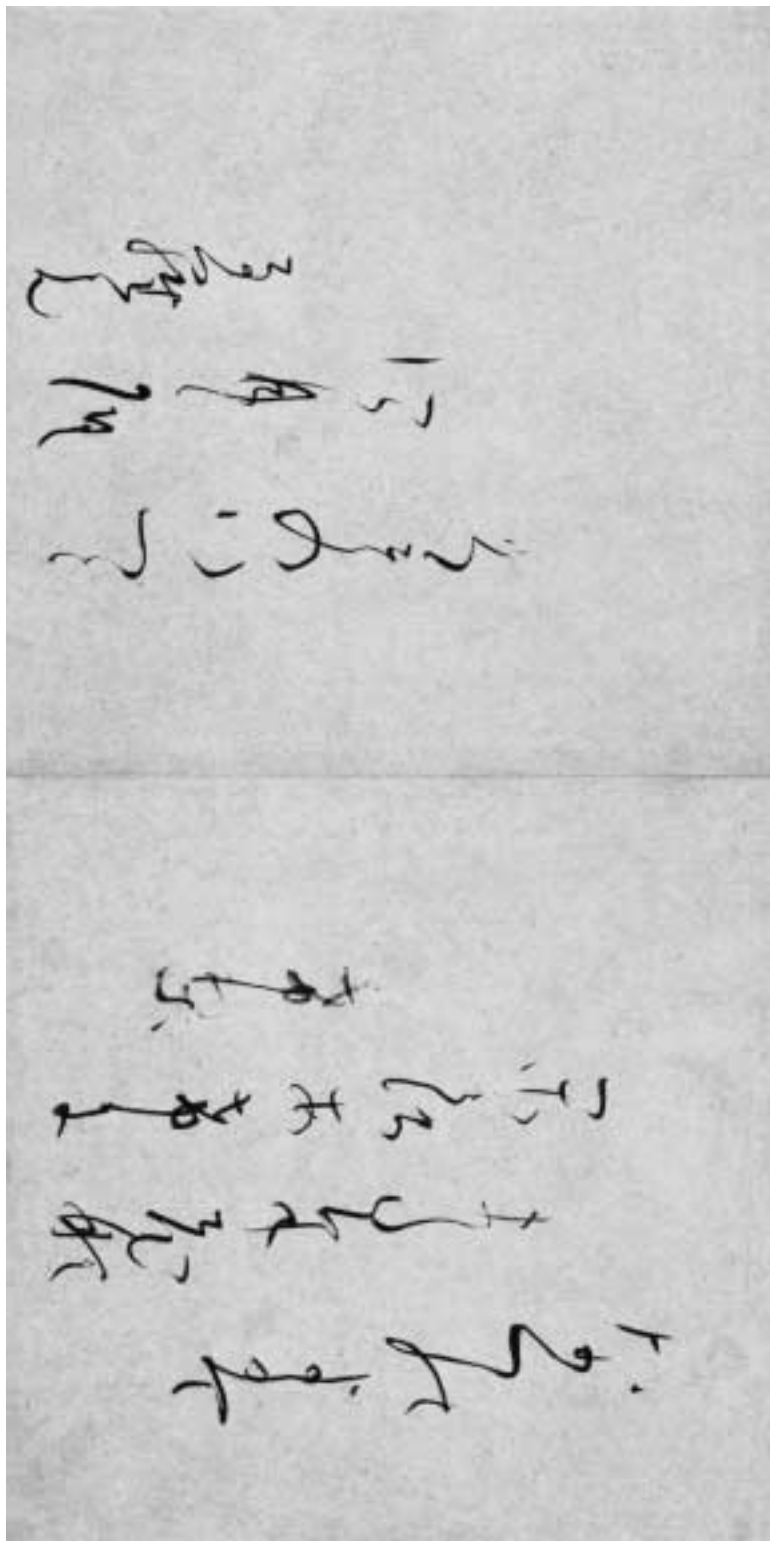
(編集部)

継色紙 (伝 小野道風)

※左記の掲載歌一首を書く

用紙 ・ 半紙普通判 (料紙可)  
〈よこ長に使用〉

※落款を必ず入れる。署名もしくは〇〇臨 (押印のみ可)



たて 13.5 cm  
×  
よこ 13.4 cm  
の料紙2枚  
を継いだ寸  
法

〈よみ〉

なつ(能)よは(盤)  
まだ(多)よ(余)ひ(飛)な(那)  
が(閑)ら(良)あけ(希)に(尔)  
け(希)り(梨)  
く(久)も(毛)の(い)づこ  
に(仁)月か(可)く(俱)  
る(羅)ん(无)

〈解説〉

継色紙の料紙は、斐紙の染紙で、薄紫、藍、黄、白など種々の色を用いている。和歌は、古今集を中心に、万葉集や古歌などが扱われている。筆者は、小野道風と伝わるが確証は

なく、漢字の使い方や字母の分析などから小野道風の時代に書かれたという説と、道風の時代より百年ほど後の、院政の始まるころに書かれたという説がある。(編集部)

漢字規定 初段以上 【七月二十日締めきり】 用紙 半紙普通判

千葉耕風選書



花含宿雨開  
よみ（花は宿雨を含んで開く）

書体Ⅱ自由

### 習い方解説 (三)

千葉耕風

花含宿雨開

（花は宿雨を含んで開く）

李峯の詩より

花含宿雨開—今回は五言一句を隷書で書きました。隷書は古隷と八分隷に分けますが、礼器碑を参考にして硬めの筆を使い、細い線で強靱さとスピードさをねらい、現代的に出来ないかと・・・。「花」は明清以前は「華」を用いておりますが、現代的を考えて「花」を使って「蒼」の隷体にして使っております。



如世

泰濤の如し



鏡相

世相如鏡 よみ(世相鏡の如し)

書体Ⅱ楷書

### 習い方解説 (三)

牧 泰濤

世相如鏡

(世相鏡の如し)

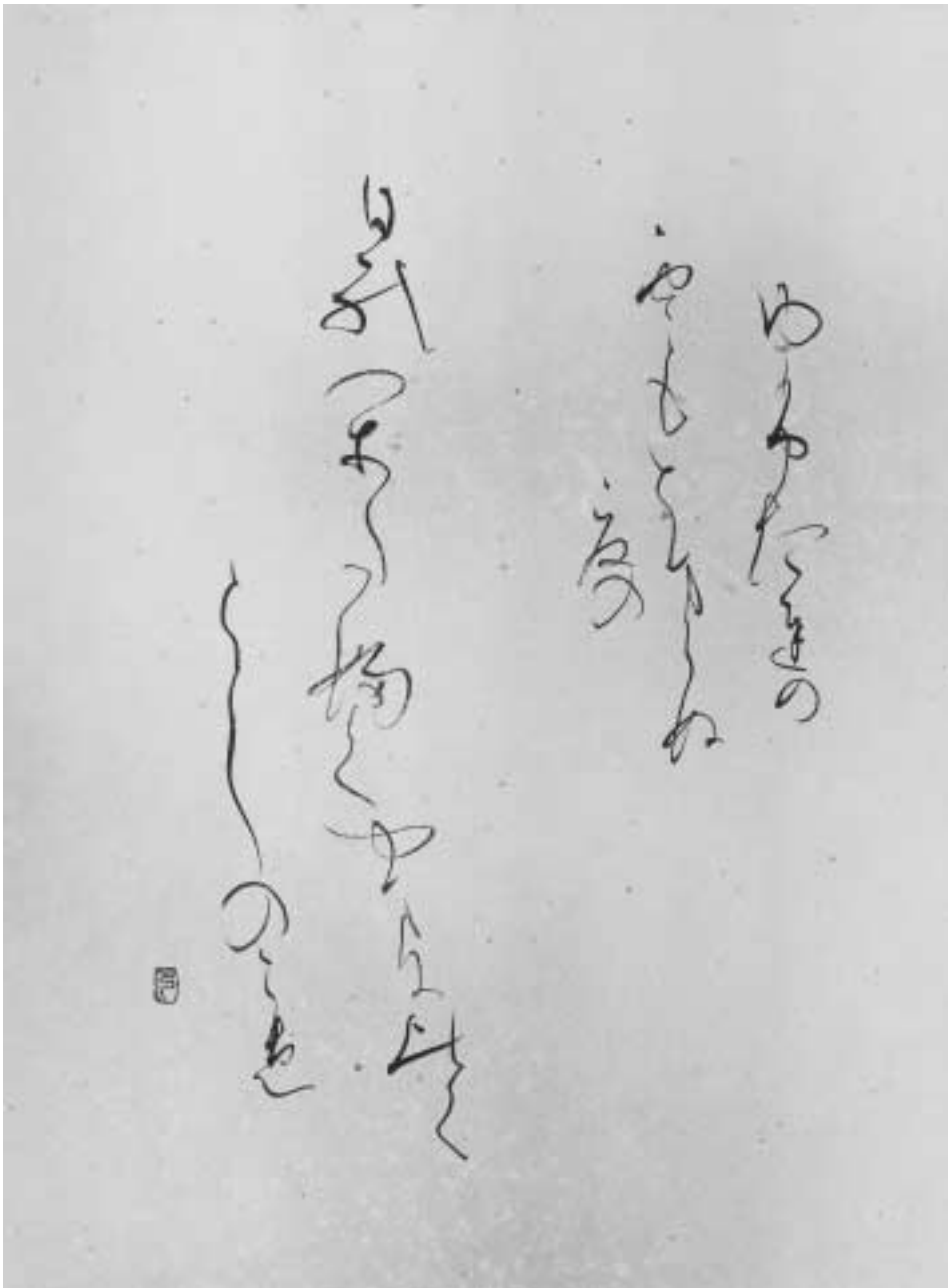
①上達のポイント(3)

一字一筆を守る。

羊毫は鋒先がよじれ、曲ったまま、復元しません。ために何度も硯の陸で筆を整えたくなくなります。が筆は書き乍ら整えるのです。

「できない?」。できるまで、我慢に我慢して続けるのです。6ヶ月いや1年後?。5年後で名手に?。(これ要した時間に因るので個人差あります)

②楮風は画の向勢という点も大切ですが。縦画の構成法で一字の中の対立する縦画がある場合、例えば、課題の中の目、口、日。世の三本の縦画など向きあって外にふくらむもの。注意して書いてみましょう。



### 習い方解説 ③

大辻 多希子

夕立ゆふだちの雲もとまらぬ夏の日の  
かたぶく山にひぐらしひぐらしの声

（新古今集）

「かな」作品は連綿線を、一文字、三字と連綿をした時に美しい動きが表現出来ます。手本を見て型をまねる事に気が使いすぎると、連綿する線の流れがとぎれて表現が弱くなります。

最終画と次の最初の画までをゆるめずに書く事を心掛けます。

又、連綿の中には線を省略する時があります。手本二行目の、らぬ、はらの最終画と、ぬの一画目は一本の線で繋がっています。四行目、万尔、の万から尔の連綿も同じです。

古筆には七字、八字と続く連綿もあります。好きな古筆を選び、臨書を繰り返し練習して自分のリズムを作ってください。

よみ方 ゆふ(布)だち(遅)の雲もとま(万)らぬ夏の日の(能)か(閑)た(多)

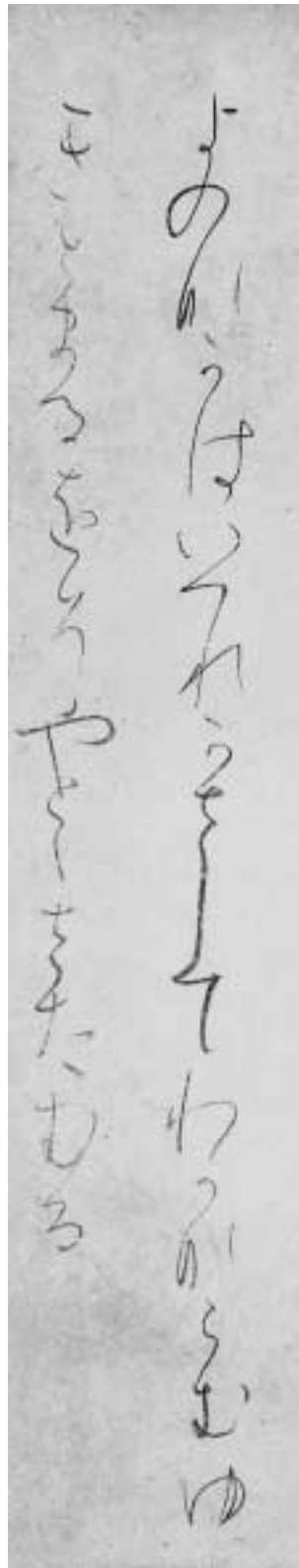
ぶ(婦)くやま(万)に(尔)ひ(比)ぐらしのこゑ(恵)

創作

かな規定 秀級以下 【七月二十日締めきり】 用紙 半紙タテ1½（料紙可）（たて32センチ・よこ12センチ）

掲載写真のうたを全臨、または部分（二字以上の連綿）を臨書する。

高野切第三種  
（掲載写真縮小93%）



よみ方 よのな(那)か(可)はいづれか(可)さしてわが(可)な(那)らむゆ

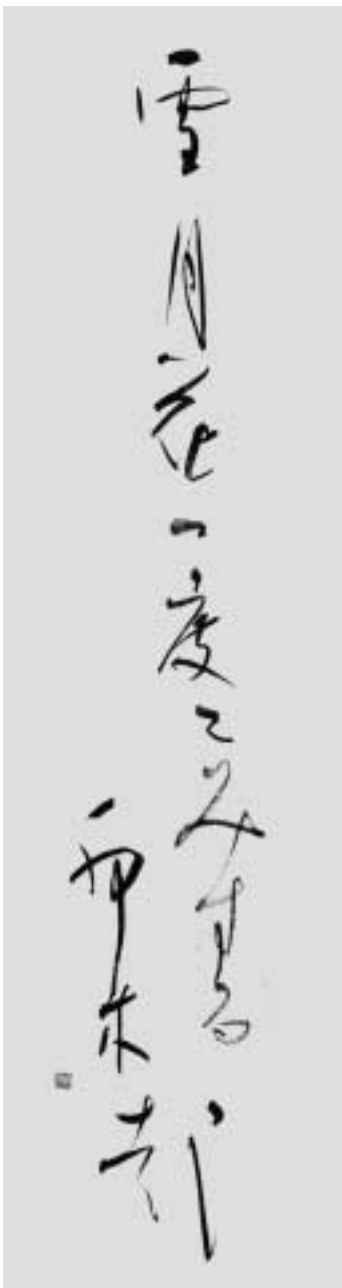
きとまるをぞ(曾)やどくさだむる

### 習い方解説 (三)

石井明子

かな条幅規定 【七月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切（料紙可）

石井明子 選書



よみ方 雪月花一度に(二)みする卯木哉

創作

雪月花一度に見する卯木哉

（松永貞徳）

松永貞徳は、後の松尾芭蕉につながる俳諧の流行の先駆者です。和歌、連歌を学び、歌学にも深く貞明派をつくりました。

卯木の花は雪のように白く、卯月（四月）に通じ、自身花開くさまを詠みました。漢字の多い一句ですが、かな作品らしい雰囲気になるよう心がけました。洒落を味わい、楽しく書きましょう。

※たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【七月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

山内孝石 選書



酒遇故人随量飲 花賞好處及時看  
(酒は故人に遇て量に随って飲み 花は好き処に当り時に及びて看る)

書体||自由

漢字条幅規定 秀級以下 【七月二十日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

生田翠龍 選書



人生感意氣 功名誰復論  
(人生意気に感じ 功名誰か復た論せん)

書体||自由

### 習い方解説 (三)

山内孝石

酒遇：  
旧い友人に会って酒をほどよく飲み、花はその時節に好い處で眺める。  
この用筆で、肉をつけたり、細くしたりして書いてみましょう。

### 習い方解説 (三)

生田翠龍

初唐の魏徵「述懐」から二句。  
楷書完成期の詩です。欧陽詢や虞世南と同世代です。彼らの結節点に褚遂良が立ちます。「雁塔聖教序」はその成果でもあります。

褚法は学書者必学の書法とはいえず、筆に従えば体が儘ならず、体に従えば筆の儘ならぬ書法です。

要は王法、円筆・方筆、欧法・虞法の折り合いのつけ方です。

習い方解説 (三)

今村菁華

夕焼小焼で日が暮れて  
山のお寺の鐘がなる  
お手々つないで皆かえろ  
烏と一緒に帰りましよう  
中村雨紅「夕焼小焼」節子書

用紙はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体は自由

今月も前回と同様に童謡を素材にしました。字数は少ないですが「流れ」を考えながら書いてみました。連綿はありませんが、漢字を少し大きく、平仮名を小さくして変化をつけながら、次へ次へ……と気持ちを途切れさせる事なく書き進んでほしいと思います。毛筆の時もそうですが、ペン字は特に「くせ」が出やすいものです。私などもつい平素の走り書きのくせが出てしまい、出来上がった手本をみては、書き直し……と反省しきりです。歌詞でも口ずさみながら楽しく書いてください。

※落款を入れ忘れないようにしてください。(落款は自分の名前を入れてください。)

# 木一平作品 各部総評

NO. 563

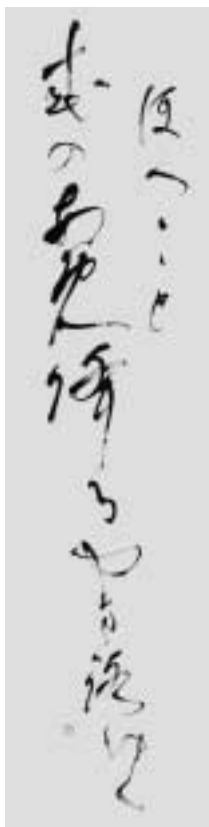
ペン字部 師範 都丸みどり

文字構成の細かい点まで緻密に配慮されていて素晴らしい。余白部分が澄明で格調高い作品です。  
◎ペン字部総評 全体としてリズム感に溢れ、気分一貫した作品が多かった。行書の結体やかなの字形に意を用いること。(小扇評)

国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。向側の座席から娘が立って来て、島村の前から窓を落した。雪の冷気が流れた。  
川端康成 雪国より みる書

かな条幅部 準師範 確井 弘

群を抜いた生彩感で目を見張りました。大胆さと繊細さが適格な用筆によって緩急を奏で見事です。  
◎かな条幅部総評 比較的誤字もなく書きやすかったようですが、豪快さが荒さにならぬよう、鋒先は丁寧に扱います。(洋子評)



前衛書部 特選 山崎 恵

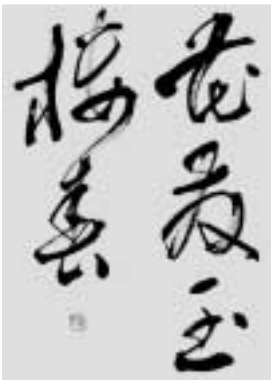
余白が生かされ、力強い線質で密と疎とが巧く調和された作品。汚れと印の位置が気になる。  
◎前衛書部総評 楽しい作品が多かったが、紙面全体自由に大きな動きある作ほしかった。(洞仙評)



漢字条幅部 師範 井川 皓蒼

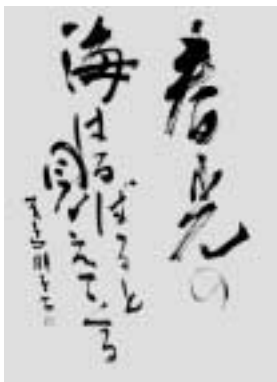
落ちついて送筆し、しつとりと品のよい書となった。書の品格について考えさせる作品である。

漢字部 師範 阿部 恵泉  
小気味よい連筆のリズムで明るく爽やかにまとまった作。筆端の切れ味よく技術の安定を見せる。  
◎漢字部総評 上級者参考例による草書表現、形のみ追って線質の甘いもの多し。基礎的な修練を更に積んでほしい。(大雲評)



かな部 師範 戸来 益江

手本をよく研究し、自分の掌中に収め、独自の明るい格調ある作品に表現した力量は見事です。  
◎かな部総評 作品の展開にためらいを感じながらの表現が目立ちました。伸びやかに書くことは重要な基本の一つです。(明子評)

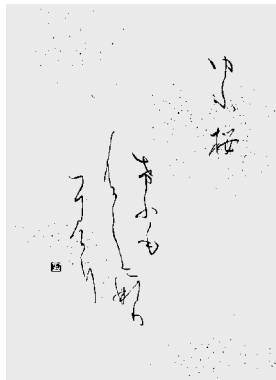


現代詩文書部 特選 吉野 朋子

スタートがよい。迫力と重さのある堂々とした見事な一行目。それに軽やかな後半のまとめもよい。  
◎現代詩文書部総評 美しい墨色は紙によっても変わります。さらに研究をしてください。(蘭華評)



◎漢字条幅部総評 漢字の造形や線やリズムから受ける喜怒哀楽や人がらに毎月接しながら、書の魅力を感じるこの頃です。(春洋評)



特別研究部  
優秀作品(特選)



長島 僊雨書

35×135cm

現代詩文書

(大雲) 長島 僊雨

「坂村真民の詩」

◆太細の変化が鮮明で、行間の余白が明るく冴えている。書き出しやや小粒でもう少し余裕あればと思う。落款も丁寧さほしい。

(大雲評)

◆線の潤濁、大小のリズムが快よく、行間を明るくしている。感情のない細い線と弱いタッチの点がないになるが、どうだろう。

(春洋評)

◆かなの書き手側から言うと、鮮やかな太細の変化はリズムを壊すようで気になります。現代詩文書との違いでしょうか？ 明敏さが好ましい。

(洋子評)

◆墨のかたまりと細い線の調和が巧みに表されていて思わず詩を口づさんでしまう感。細い線が実に美しく表現されていて楽しい気持ちです。

(倫子評)

かな

(卯月) 栗原信子

「むらぎもの…」

(良寛)

◆上下の脈絡にやや欠けるが、かなとしての作品として見ると巧く仕上げられています。良寛歌なので今後は歌意を咀嚼した表現にも挑戦を！

(洋子評)

◆大きな紙に遠慮なく活躍した筆の動き見事。筆に強弱をはっきりつけて表現するのは、かな構成には大変だったと思われませんが素晴らしい。

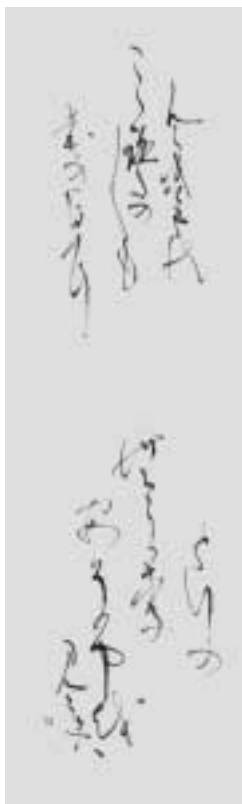
(倫子評)

◆上下二集団に分けてよくまとめて安定している。動きはおおらかで、豊かさもある。さらに冴えた線の研究もされてはいいが。

(春洋評)

◆運筆のリズムよく大きな動きで紙面を広く見せている。線質の切れ味がやや鈍く感ずるのは墨色の悪さからか。用墨に心したい。

(大雲評)



栗原信子書  
180×53cm

総評

マティスはルオーへの手紙の中で、「改革者とその追従者ほどの時代にもあったが、その時は、追従者の方が称賛されてきたのだ」と述べている。真の改革者は、先鋭的すぎてその時代には理解されないものなのだろう。だとすれば、新しいものへの挑戦は最後には時代に忘れ去られる存在なのかもしれない。しかし自分の信ずるところを歩めば時代が追いついてくるものかもしれない。

今回は87点(漢19、か8、現30、前27、篆3)常連の方の作品が多いが、毎日展等の公募展を機に新人の挑戦を期待する。

(蒼玄)

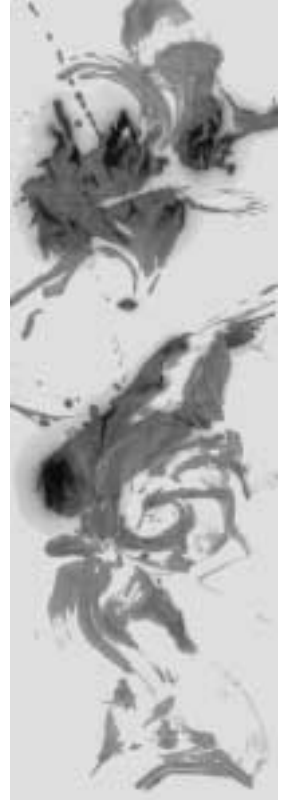
〈特選候補者〉

漢	墨宣	大川	代香	現	玄穹	千葉	紅雪
〃	声香	米倉	馨香	篆	千葉	大隅	晃弘
〃	もく	西川	藤象	前	連紅	佐々木	紅楓
〃	千葉	尾形	澄神	〃	大拙	大庭	幸石
〃	千葉	大内	榮軒	〃	四谷	鈴木	白鷺
〃	翠和	加藤	紫翠	〃	四谷	角田	悠香

前衛書 (蓮紅)

浅野彩紅

「千の風」



◆動きの激しい表現。体全体で取り組んだ感が紙一杯に表れている。この動きの中に一瞬息をつくような筆の止まりが表現出来たらもっと上に。(倫子評)

浅野彩紅書

180×60cm

◆大きなうねりの風が、上から下へと吹き荒れて、下辺でおさまる。青墨の墨溜りが深遠な宇宙を形成しているようにも思える。(春洋評)

(大雲評)

◆青淡墨の潤濁をダイナミックに変化させ、スケールの大きな作となった。線のくい込みがやや甘く、更に深味のある線質の研究を。

(大雲評)

篆刻

(大雲) 佐藤希雲

「乾坤一擲」



佐藤希雲刻

(縮小)

◆全体に明るくまとめた。「坤」の「申」の部分、気になる部分もあるが、「乾」や「一」の刀の切れに進境があった。さらにご精進を。(春洋評)

(春洋評)

◆重厚さとシャープさが巧みに共存し、何よりも白が美しく映え出した。縁の微妙な変相と字画の切れ味の良さに余裕を窺わせます。(洋子評)

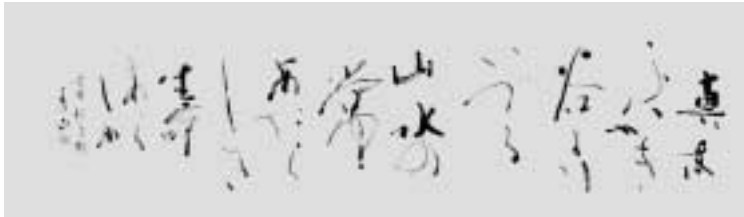
(洋子評)

◆線に息づかいを感じる構成が一体となり見事な出来。「一」の画数が少ないので処理が難しいのを次の構えと合致して見事な出来。

(倫子評)

◆四文字の布字のバランスよくまとまりある作。刀意の冴えが今一つ足りなく感ずる。右下へのびた斜画の処理に二工夫ほしい。

(大雲評)



熊谷青山書 49×168cm

現代詩文書

(蒼原) 熊谷青山

「今井邦子の歌「真木ふかき…」」

◆大らかな雰囲気紙面を大きくみせ呼吸の長さを感ずる。柔毫筆の弾力を生かした艶のある線質が美しい。点の打ち方や軽すぎか。(大雲評)

(大雲評)

◆明るい大らかなムードが見る者を暖かく包み、抑えた墨法にホッとします。ただ細い線や速筆が少々軽く浮いてしまったのは残念でした。(洋子評)

(洋子評)

◆書いている人が口ずさんでいる雰囲気を感じられる。筆の動きにリズム感が表現されているので一層その感が強いのだろうか。(倫子評)

(倫子評)

◆のびやかな線で、やわらかい余白を生んで明るい。筆が細いので大きい字はやや無理な線も見られるが、最後の落款で安定した。(春洋評)

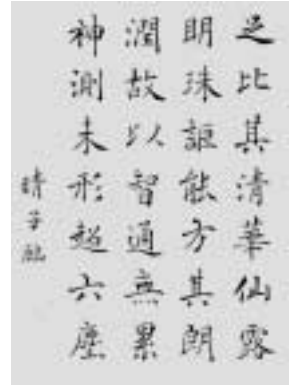
(春洋評)



漢字研究部  
(雁塔聖教序)

選評 村野大仙

今月のホープ作品



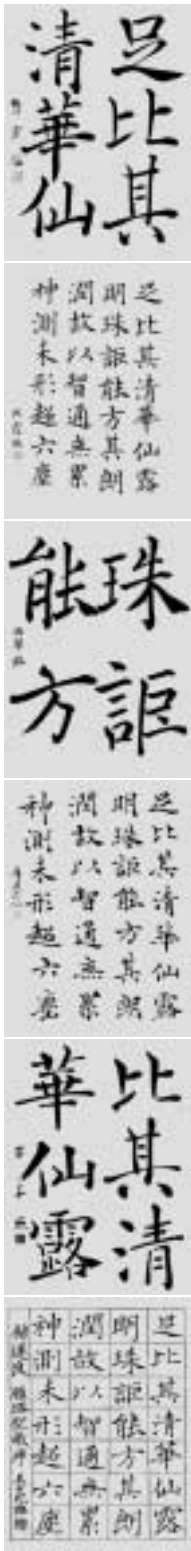
藤井晴子

漢字研究部 特選 藤井 晴子  
厳しさと弾力性が筆鋒の働きにしっかりと併存、豊かな情味を醸し出している。すっきり澄明な線が作品の品格を高めている。落款の部分が章法上、間の抜けた感がして気になりました。

◎漢字研究部総評

小字作品と大字作品、これを対比的に考えてみました。小は大変丁寧、大は元気がよい。

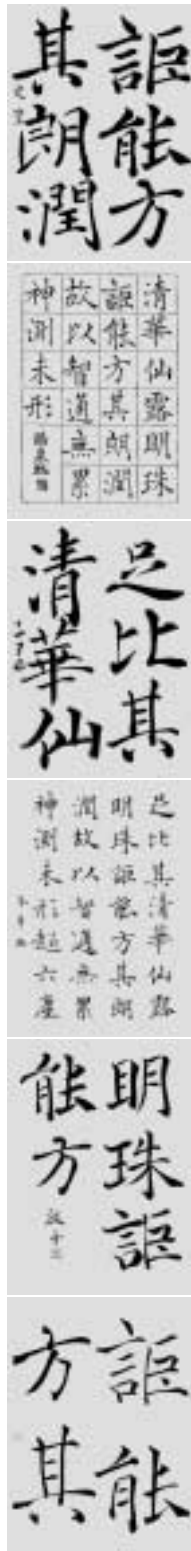
反面小は気力に乏しく弱々しい、大は誠に粗雑乱暴、そんな感を深くしました。臨書への学書姿勢にも多々あるでしょうが、古典への真摯な対応と豊かな活力ある表現が大切かと思えます。私見としては大字表現の方が効果的に収穫が得られると考えます。古典を注意深く観察し、有りのままに正しく見抜き心込め気力を充実させて表現することを望みます。でも、これが難しい事なんです。



美哲 尚紅 賢  
由子 蓉翠 雲



杏箕 紫白 聡洸  
仙城 蘭麗 苑城



美敏 春十 皓史  
佐子 華子 泉篁

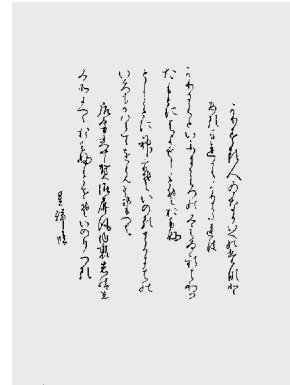


典叙 輝兵 翠麻  
子舟 美峰 徑美

かな研究部  
(伊勢集)

選評 黒川 江偉子

今月のホープ作品



大石星祥

かな研究部 特選 大石 星祥  
 関戸本古今集の系統に入る書風が、更に円形化したこの調子を見事に捉え、墨色、連綿、いづれを取っても香り高い格調ある作品と思います。

◎かな研究部総評 行間のとり方で、仕上りが大分違ってきました。布置に充分留意して書いてください。墨色がうす過ぎるのも折角の作品を台無しにします。初歩的な事を大切に。

悦草淳 久優萩 美寿 信佑皓  
 子秋子 枝子光 弘佐枝子 子子泉

かな研究部成績表

正華	N大	八街	こだ	京雲	大雲	秀作	椿翠	N華	英祥	石智	椿翠	龍泉	玉松	霜月	もく	硯水	五葉	蘭殿	前正	A秀	秀水	石水	こだ	
伊藤	池田	五十嵐	朝倉	東倉	朝倉	秀作	坂本	佐藤	浅見	小内	森本	橋本	宇田	戸部	宮村	秋山	小野	雅野	伊藤	門田	吉田	内田	大石	
英子	良彦	翠佳	萩来	花子	倉隔	秀作	安藤	本美	みよ	桂香	晃代	龍霞	紅霞	桂子	悦秋	草久	淳久	優萩	佐枝	美佐	寿佑	信佑	皓星	
高陵	佳	梅翠	明漢	正橋	京橋	梅翠	五葉	華葉	英祥	藤会	明水	硯水	玉松	湘松	東街	澄春	大泉	八象	調布	広島	竹島	智島	石島	
會木	作	百鬼	村井	宮崎	平川	西川	遠山	玉野	田中	助野	嶋川	塩澤	佐藤	佐藤	齋藤	後藤	五藤	古野	小島	熊谷	河岡	木下	生方	井上
風彩	瑠璃	紅万	信子	矩美	禮泉	政泉	祥泉	笑泉	珠華	白登	幸雲	清雲	彩雲	尚雲	悦雲	尚雲	翠雲	博雲	洋雲	吉雲	幸雲	龍雲	朝雲	悦雲
洞書	千街	高葉	秀峰	千和	秀泉	藤雲	千雲	大雲	山雲	大雲	王雲	雲雲	雲雲	雲雲	雲雲	雲雲	雲雲	雲雲	雲雲	雲雲	雲雲	雲雲	雲雲	雲雲
安藤	熱田	足立	青木	渡辺	若菜	湯山	柳堀	森下	村田	村田	松田	堀田	堀田	深田	西田	西田	中山	中山	土谷	土谷	田中	田中	高橋	高橋
楊風	紅彩	萬理	信子	矩美	禮泉	政泉	祥泉	笑泉	珠華	白登	幸雲	清雲	彩雲	尚雲	悦雲	尚雲	翠雲	博雲	洋雲	吉雲	幸雲	龍雲	朝雲	悦雲
昆陽	千葉	正生	春大	硯春	柳春	英春	龍春	京春	京春	山春	山春	山春	山春	山春	山春	山春	山春	山春	山春	山春	山春	山春	山春	山春
穴倉	澤田	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤	佐藤
和月	煌炎	雙美	麻美	彦美	早美	知美	松美	閑美	芳美	昭美	輝美	順美	都美	彩美	秋美	行美	瑞美	辰美	雅美	照美	良美	窓美	久美	美美
選外	春打	明漢	昌苑	青峰	生大	前大	松大	紅大	春大	春大	春大	春大	春大	春大	春大	春大	春大	春大	春大	春大	春大	春大	春大	春大
196	吉原	吉野	吉田	吉田	山木	山木	山木	山木	山木	山木	山木	山木	山木	山木	山木	山木	山木	山木	山木	山木	山木	山木	山木	山木
名氏	枝子	彩子	鶴子	光子	澄子	龍子	綾子	光子	澄子	龍子	綾子	光子	澄子	龍子	綾子	光子	澄子	龍子	綾子	光子	澄子	龍子	綾子	光子
略	枝子	彩子	鶴子	光子	澄子	龍子	綾子	光子	澄子	龍子	綾子	光子	澄子	龍子	綾子	光子	澄子	龍子	綾子	光子	澄子	龍子	綾子	光子

# 平成20年度 第44回書道芸術院単位認定講習会のご案内

書道芸術院単位認定講習会を下記により開催いたしますので、お誘いあわせの上ご参加下さい。

なお、このご案内は審査会員候補並びに審査会員に送付しておりますが、無鑑査並びに一般の方にもご案内いただければ幸いです。

## 記

1. 目的 総合団体である本院の性格から、所属部門以外の部門についても幅広く学習し、資質の向上をはかることを目的とする。(審査会員となるためには、本講習会の受講が必須です)
2. 期日 平成20年8月23日(土)10時開会～8月24日(日)15時閉会
3. 会場 鷺羽ハイランドホテル  
〒711-0926 岡山県倉敷市下津井吹上303-17 Tel 086-479-9500
4. 主管 山陽支部 支局長 小竹石雲  
〒709-1213 岡山県岡山市灘崎町彦崎2902 Tel 08636-2-0293
5. 内容 単位認定(24単位)  
実技(漢字, かな, 現代詩文, 刻字, 前衛書) 理論(書道芸術院史, 原拓書道史, 一般教養)
6. 費用 講習料(運営費) 5,000円

参加区分	講習料(運営費)	宿泊等	計
A講習会参加(23日宿泊)	5,000円	17,000円(1泊+懇親会費)	22,000円
B前泊で講習会参加 (22, 23日宿泊)	5,000円	17,000円(1泊+懇親会費) 13,000円(22日宿泊)	35,000円
C後泊で講習会参加 (23, 24日宿泊)	5,000円	17,000円(1泊+懇親会費) 13,000円(24日宿泊)	35,000円
D前後講習会参加 (22, 23, 24日宿泊)	5,000円	17,000円(1泊+懇親会費) 26,000円(22, 24日宿泊)	48,000円
E講習会と懇親会参加 (宿泊なし)	5,000円	7,500円(懇親会費) 1,600円(22, 23日昼食代)	14,100円

\* 会費は申し込みをしてから振替用紙にて納入になります。

## 7. 科目と講師

漢字 浜田尚川    かな 石井明子    現代詩文 坂本素雪    篆・刻 小山鳳来  
前衛 千葉蒼玄    原拓書道史 辻元大雲    院史 恩地春洋    一般教養 上西節雄

## 8. 申し込み方法

- (1) 定員 200名(講師団、役員含む) 資格は問いませんが下記資格を優先します。  
①審査会員候補 ②審査会員 ③無鑑査 ④一般
- (2) 申し込み締切 平成20年6月16日(月)
- (3) 下記事務局に申し込み下さい。詳しい要項と費用振替用紙を後日送付します。

事務局 〒710-0145 岡山県倉敷市福江1428-1 大平邑峰

Tel 086-485-0316 又は Tel&Fax 086-485-4665

# 〈 ご 案 内 〉

創立35周年記念

# 日本の詩歌と 書の世界

日本詩文書作家協会

主催＝日本詩文書作家協会  
後援＝毎日新聞社・全日本書道連盟

〔席上揮毫〕

6月14日④AM11:00－12:00

阪口大儒（太源）  
河辺久美子（白峰）  
田中豪元（創玄）  
中村小汀（北辰）  
渡辺象山（創玄）

6月15日⑤AM11:00－12:00

川口雄峰（創玄）  
齊藤千尋（書燈社）  
瀧野喜星（創玄）  
齋田香住（日書美）  
小竹石雲（書道芸術院）



〔会期〕 2008年6月10日④ — 15日⑤  
〔会場〕 東京セントラル美術館（名鉄メルサ 5F）

a.m.10:00-p.m.6:00（最終日はp.m.5:00まで） \* 入場料／一般500円 学生300円  
銀座2丁目名鉄メルサ Tel.03-3564-4813（会期中のみ）〔入場者に抽選で協会オリジナル記念品を進呈〕

特別企画

講演会 6月10日④ p.m.2:00－3:00 小沢昭一先生  
〈演題〉明日のこころ

席上揮毫 6月14日④、15日⑤〔両日とも協会出品者による揮毫〕  
A.M.11:00－12:00

ビデオ放映 金子鷗亭のその書業・春季研究会等の記録他

事務局 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-2-404 日本詩文書作家協会 ☎ 03-5330-0902

創立35周年記念  
日本の詩歌と書の世界

日本詩文書作家協会

院  
関  
係  
出  
品  
者

浜畑長田種田菅白佐坂齊最小熊金小尾上池小尾砂飯辻浜  
田中井村谷中原石藤本藤首池谷木寺形村田竹形本高元田  
堂弄四鄭萬梨江和無素理翠蹊宗和逢澄棠和石鼎杏和大一  
光石枝雲城梢浦楓極雪舟風舟苑子仙神芳京雲山花子雲堂

横門目三西西中土高鈴佐小小桑大大及井伊赤森村町広半  
田間良浦山岡村田田木間竹出原平隅川上勢沢山山瀬田  
汀香泰鄭珠雨青詢幽智玉明花明房晃豊始紗東舞元美舟藤  
華舟幽街香瑤蘭扇玄翠流峰雪珠子弘流源由洞扇信扇雲扇

# 院報

## 財団法人書道芸術院理事会・評議員会

左記のとおり定例の理事会及び評議員会が3月と5月の2回にわたり報告されます。今月と来月の2回にわたり報告します。

日時 平成20年3月16日(日)

評議員会 10時～12時

議長 小竹石雲

理事会 13時～15時

議長 恩地春洋

会場 上野精養軒

議事 平成20年度事業計画

平成20年度予算案

理事改選(評議員会)

その他

日時 平成20年5月18日(日)

評議員会 10時～12時

議長 小浜大明

理事会 10時～12時

議長 恩地春洋

会場 上野精養軒

議事 平成19年度事業報告

平成19年度決算・監査報告

審議事項

第62回書道芸術院展人事

その他

## 財団法人書道芸術院役員

名誉顧問

小伏竹村(新)浜田一堂 村野大仙

袖口青萍

常任顧問

水谷鴨村 鳥山岳風(新)山下皓映

理事長

恩地春洋

常務理事

辻元大雲

理事

飯高和子

尾形鼎山

(新)小伏小扇

西林乘宣

監事

木村船翠(新)小竹石雲

評議員

石井明子(新)稲垣小燕 加藤眺溪

後藤大峰 小浜大明 小林琴水

(新)最首翠風 齋藤雨城 坂本素雪

下谷洋子 滝 春芳 種谷萬城

千葉蒼玄 千葉耕風 津田和秋

外處思水 名越蒼竹(新)浜田堂光

牧 泰濤 山田梓江

参事

(新)尾崎栄藏 上柳佳規 田守光昭

事務局長

千葉蒼玄

## (財)書道芸術院平成20年度事業計画

I事業の状況

1、「書」に関する展覧会の開催

「書」に関する展覧会については、本年度は以下のような事業を実施す

る。

(1)書道芸術院展(第62回展)

1. 会期 平成21年2月6日(金)～2月11日(水)

2. 会場 上野 東京都美術館

地階 2室

1階 1B・2・3室

2階 2・3室

3. 要項

ア.書類・作品搬入

無鑑査・一般

平成20年12月3日(水)

イ.鑑別・審査

無鑑査・一般

平成20年12月13日(水)

残務

平成20年12月14日(木)

ウ.書類搬入

審査会員・審査会員候補

平成21年1月21日(水)

エ.作品搬入

平成21年1月29日(水)

オ.審査

特別賞選考(審査会員候補)

平成21年1月30日(金)

特別賞選考(審査会員)

平成21年1月31日(土)

カ.陳列

平成21年2月5日(木)

キ.撤回

平成21年2月11日(水)

ク.搬出

平成21年2月12日(木)

4. 合同鑑賞会

平成21年2月10日(火)

14:00から 東京都美術館

5. 表彰式

平成21年2月11日(水)

10:00から 帝国ホテル

6. 祝賀会

平成21年2月11日(水)

12:30から 帝国ホテル

7. 第62回展出品サイズ(単位cm)

①審査会員は次の四種類とする

a 60×180 b 73×150 c 90×120

d 105×105

②審査会員候補は次の三種類とする

e 51×172 f 90×90 g 70×120

③無鑑査は次の二種類とする

h 42×150 i 70×90

④一般作品は次の二種類とする

j 90×60 k 30×172

⑤篆刻作品は次のとおりとする

l 30×30

⑥刻字作品は次の三種類とする

m 51×60 n 30×90 o 35×67.5

8. 一般公募出品料

①30歳以上 7千円

②30歳未満

(平成21年1月1日現在)3千円

9. 運営委員会

運営委員長

恩地春洋  
運営委員

辻元大雲 大野祥雲

浜谷芳仙 飯高和子

板垣洞仙 大平鉄男

尾形鼎山 香川倫子

黒川江偉子 小伏小扇

嵯峨大拙 砂本杏花

西林乘宣 宮澤梅徑

辻元大雲

副委員長

大野祥雲 浜谷芳仙

事務局長

千葉蒼玄

総務部長 東福青堂

審査部長 小竹石雲

陳列部長 田村鄭雲

表彰祝賀会部長 石田春窓

会計部長 榊原秀蘭

特別賞選考委員

峰雲賞

恩地春洋 辻元大雲

大野祥雲 浜谷芳仙

香川倫子 尾形鼎山

黒川江偉子 宮澤梅徑

大賞・準大賞・白雲紅梅賞

恩地春洋 辻元大雲

飯高和子 小伏小扇

嵯峨大拙 石井明子

加藤眺溪 後藤大峰

小浜大明 最首翠風

坂本素雪 下谷洋子

浜田堂光 尾崎栄藏

田守光昭

(2)書道芸術院秋季展

1. 会期 平成20年9月30日(火)～

10月5日(日)

2. 会場 東京セントラル美術館 (5階)

3. 出品者

A. 名誉顧問、常任顧問

B. 財団役員他

C. 審査会員選抜作家

D. 審査会員候補(公募)

4. 出品料

A. 3万円

B. 7万円

C. 5万円

D. 鑑別料 2点まで5千円 (1点でも5千円)

出品料(入選者) 3万円

出品ノ切り

平成20年8月8日(金)

6. 公募作品審査

平成20年8月22日(金)

7. 担当常務理事

浜谷芳仙

8. 担当理事

小伏小扇 西村乘宣

9. 実行委員長

小浜大明

※作品は別紙出品要領による。

2、「書」に関する人材養成

「書」に関する人材育成については、本年度は以下のような事業を実施する。

(1)全国学生書道展

(姉妹団体：全日本学校書道連盟)

併催全国学生書道展指導者作品展

示

1. 会期 平成20年7月28日(月)～

8月3日(日)

2. 会場 東京都美術館

3. 規定内容

ア. 出品資格

第1部 幼稚園・小学生

第2部 中学生

第3部 高校生

第4部 大学生・専門学校生

イ. 参加要領 前回展と同じ

ウ. 作品受付

平成20年6月9日(月)

エ. 審査

平成20年6月14日(土)

平成20年6月15日(日)

10時～16時 共和会館

10時～16時 共和会館

10時～16時 共和会館

才褒賞

A 個人賞

B 団体賞

カ. 陳列

平成20年7月27日(日)

キ. 表彰式

平成20年7月31日(木)

11時～12時

東京都美術館

ク. 撤回

平成20年8月3日(日)

14時～16時

東京都美術館

ケ. 搬出

平成20年8月5日(火)

9時30分～16時

本連盟事務所

4. 審査役員

A 賞選考委員、準備委員、

中央審査員

5. 担当常務理事

大野祥雲

6. 担当理事

嵯峨大拙

7. 実行委員長

小伏小扇

8. 部長

総務部長 国府田椿翠

審査部長 崎井恵風

陳列部長 三浦鄭街

表彰部長 半田藤扇

揮毫部長 川島舟錦

会計部長 榎原秀蘭

9. 指導者作品展示

ア. 出品資格 本展出品指導者

「書」の教室」支部指導者

書道芸術院審査会員

イ. 会 期

平成20年7月28日(月)

8月3日(日)

ウ. 会場

東京都美術館

全国学生書道展展示会場

エ. 作品寸法 半紙額内自由

50cm×38cm以内タテヨコ自由

オ. 出品料 1万5千円

(表装料、返送料含む)

10. 台湾訪問団の派遣

ア. 派遣者

学生展特別賞受賞者

イ. 期 間

平成20年8月1日(金)

8月3日(日)

ウ. 訪問先 台北市

エ. 訪問団の編成

団 長 恩地春洋

副団長 小伏小扇

秘書長 千葉蒼玄

(2)書初誌上展

発表 月刊「書の教室」

平成21年3月号に掲載

1. 規定内容

前回展と同じ

2. 担当常務理事

辻元大雲

3. 担当者

尾形澄神

3、「書」に関する講習会、講演会の開催

催による普及活動

「書」に関する講習会、講演会の開催による普及活動については、本年度は以下のような事業を実施する。

(1)平成20年度書道芸術院講習会

(単位認定)

1. 開催時期

平成20年8月23日(土)

8月24日(日)

2. 開催地

岡山県倉敷市

鷺羽ハイランドホテル

3. 受講対象者

本院会員及び

一般書道愛好者

4. 担当理事

大野祥雲

5. 主 管

山陽支局

支局長 小竹石雲

6. 講 師

漢 字 浜田尚川

か な 石井明子

現代詩文書 坂本素雪

篆刻・刻字 小山鳳来

前 衛 書 千葉蒼玄

院 史 恩地春洋

原拓書道史 辻元大雲

一般教養 上西節雄

(2)講演会の開催

1. 時 期

平成20年11月23日(日)

(書道芸術院 創立記念日)

2. 会 場

東京上野 精養軒

3. 参加者

本院会員及び一般公開

4. 講 師

伊藤 滋先生

5. 担当理事

香川倫子

4、「書」の海外展開への支援

「書」の海外展開への支援については、本年度は以下のような事業を実施する。

(1)ウィーン展とワークショップ

1. 会 期 日程は未定

2. 会 場

①オーストリア ウィーン市

駐オーストリア日本大使館

日本広報文化センター

3. 担 当 (実行委員長)

谷脇梅翠

(2)台湾訪問団の派遣

全国学生書道展に計画

5、「書」に関する出版物の刊行

「書」に関する出版物の刊行については、本年度は以下のような事業を実施する。

(1)月刊「書道芸術」

「書」に関する調査研究、書の月例競書作品、昇級試験の応募要領、結果等掲載した機関誌を発行する。

担当常務理事

辻元大雲

編集担当者

半田藤扇

(2)月刊「書の教室」

小、中学生の書初誌上展や、学生への「書」の普及を主とする機関誌を発行する。

担当常務理事

辻元大雲

編集担当者

尾形澄神

6、その他本院の目的を達成するために必要な事業

(1)事務効率改善

(2)ホームページの運用

(3)総局・支局による「書」の展覧会の開催、普及活動

(4)他の団体が行う展覧会への出品の支援等

(次号につづく)

# 書展

## 第41回

### 玉松会書展を拝見して

下谷 洋子

会期 平成20年4月8日(火)

13日(日)

会場 銀座かねまつホール

昨年、第40回の記念展を迎えた玉松会は、会場を銀座かねまつのかねまつホールに移し、装いも新たに第41回展が開催されました。

かねまつホールは、エレベーターを降りると真正面に展示スペースがあります。先ず目に飛び込んで来たのは、故永井幸子先生の現代詩文書のような俳句でした。その漢字の多い万太郎の句は、やや淡墨で、確か先生の個展で拝見した



会場風景

以上も前のこと、先生の先駆的な構想に改めて敬意を抱きました。

玉松会は、現在、石井先生・黒川先生他中心になられる先生が何人かいらっしやいます。それぞれ師匠亡きあと歳月をかけて探求され、個性が湧き出たようにおもいます。社中展といえますと師風一辺倒になりがちですが、率いる先生方の変容で、かなの多様性を豊かに練り広げて、尽きない味わいを誘います。と同時に、孤軍奮闘の我が身としては、少々羨ましくもありました。今回は、展示スペースの関係か小品が多かったようですが、それぞれが小字かなの慎ましやかな思念を湛え、ひと時雅の粹をたっぷりと吸い込みました。



永井幸子先生遺墨

ように思います。今こそ詩文書のようなかなは、さ程珍しくもなくなりましたが、このお作が書かれたのは20年

## 予告

◇7月号の課題

漢字規定(初段以上)

松影和風

漢字規定(秀級以下)

慎終如始

かな規定(初段以上) 半紙(料紙可)

鯛のなき代りしははるかかな

(中村草田男)

かな規定(秀級以下) 料紙可 露切筆種

「そゑにとてとすればかゝりかくすればあないひしらすあふささるるさに」

のうたを全臨または、部分(二字以上の連綿)を臨書する。

かな条幅規定(料紙可) 兼左形式に臨

逢坂の関にながるる岩清水

いはで心に思ひこそすれ

(古今集)

漢字条幅規定(初段以上)

烟外好山供、水墨

風前、老樹、奏、笙、簧

漢字条幅規定(秀級以下)

國破山河在、

城春草木深、

ペン字規定

宵待草

までと暮らせどこぬ人を

宵待草のやるせなさ

こよひは月も出ぬそうな

夢二の詩

表紙写真 「大唐中興頌」

# 出品券 7月20日締切



566. 7月20日締切

漢 字

566. 7月20日締切

か な

566. 7月20日締切

漢字条幅

566. 7月20日締切

かな条幅

566. 7月20日締切

ペン字

566. 7月20日締切

現代詩

566. 7月20日締切

前 衛

研 究 部

566. 7月20日締切

漢字研究

566. 7月20日締切

かな研究

のりしろ

(566)特別研究作品

出品該当部門に赤○印

漢 か 現 篆 前

支局・支部名  
題名・釈文

氏名

(43ページより続く)

湘南 福島 祥風  
春壽 古郡 須美子  
紅瑤 堀本 志津子  
春月 宮川 秀翠  
調布 武藤 葱陸  
清詢 紅遊  
風水 扇 苑  
大和 山茂 森村  
堀 賀 島 木 田  
枝星 尚真 華  
風華 子 蘭 雲

計

報

大森 春舛先生

本院・前衛書部  
審査会員

平成20年4月15日逝去されま  
した。行年79歳。

網代 東月先生

本院・漢字部  
審査会員

平成20年4月19日逝去されま  
した。行年78歳。

謹んで哀悼の意を表し、  
ご通知申しあげます。

## 玉松会12人書展

会 期

平成20年7月7日(月)  
～13日(日)

会 場 ロイヤルサロン

出品者

石井明子 奥田瑞舟  
加藤紅樹 黒川江偉子  
小島孝子 山藤美知子  
田村澄子 中川春香  
平川峰子 見越雪枝  
安田啓子 和氣しげ代

〈 紹 介 〉

辻元大雲著  
条幅作品手本

四季の  
ことばを書く

〔かな交じり書篇〕

(本体1,600円+税+送料)

購入希望者は(株)可成屋(☎03-3268-7641)  
まで申し込んで下さい。



## 松 延 会 書 展

会 期 平成20年6月5日(木)～9日(月)

会 場 リベストギャラリー創 (そう)

主宰 高橋 松延 事務局 武蔵野市吉祥寺東町3-20-12  
☎0422-22-9506 小島孝子

主催：毎日新聞社・1社1毎日書道会

# 東京都美術館

東京都美術館 上野公園1-10-1 電話03-5723-1111 休館日：日曜・祭日、7月11日(金)

前期展=7月8日(火)~7月11日(金)

後期展=7月13日(日)~7月17日(木)

特別企画「第2回日中女流書道家代表作品展」

7月8日(火)~7月17日(木)

# 国立新美術館

国立新美術館 東京都港区新国立1-1 電話03-3588-1111 休館日：日曜・祭日、7月11日(金)

前期展(日)=7月9日(水)~7月14日(月)

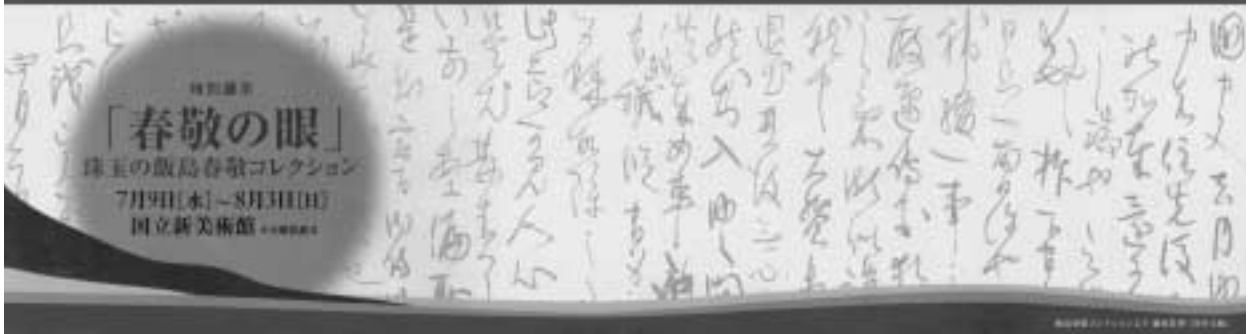
前期展(月)=7月16日(水)~7月21日(月)

後期展(日)=7月23日(水)~7月28日(月)

後期展(月)=7月30日(水)~8月3日(日)

入場料：一般：700円、学生：400円、高齢者以下無料(※当日券別) 団体料金別途

# 第60回 毎日書道展



## ■東京展 ※2会場にて全国全作品を展示

国立新美術館 ※毎週火曜休館日・水曜は午後1時開場

前期展(Ⅰ)=7月9日(水)~7月14日(月)

前期展(Ⅱ)=7月16日(水)~7月21日(月)

後期展(Ⅰ)=7月23日(水)~7月28日(月)

後期展(Ⅱ)=7月30日(水)~8月3日(日)

●毎日書道会役員、名誉・参与会員、文部科学大臣賞、会員賞、国際書壇代表作家作品

7月9日(水)~8月3日(日)

●60回展審査員、及び東京・四国展出品作品(審査会員、会員、毎日賞、U23毎日賞)

かな、近代詩文書、大字書部門=前期展(Ⅰ)(Ⅱ)※(Ⅰ)(Ⅱ)期展示替えなし

漢字、篆刻、刻字、前衛部門=後期展(Ⅰ)(Ⅱ)※(Ⅰ)(Ⅱ)期展示替えなし

●東京・四国展出品作品(秀作賞、佳作賞、会友、入選、U23新鋭賞、U23奨励賞、U23入選作品)

かな、近代詩文書、大字書部門=前期展(Ⅰ)(Ⅱ)※(Ⅰ)(Ⅱ)期展示替えあり

漢字、篆刻、刻字、前衛部門=後期展(Ⅰ)(Ⅱ)※(Ⅰ)(Ⅱ)期展示替えあり

東京都美術館 関西・中国・北陸・東海・仙台・北海道・山形・九州展出品作品

●審査会員、毎日賞、U23毎日賞作品

7月8日(火)~7月17日(木) ※12日は休会

●会員、秀作賞、佳作賞、会友、入選、U23新鋭賞、U23奨励賞、U23入選作品

前期展=7月8日(火)~7月11日(金) かな、近代詩文書、大字書部門

後期展=7月13日(日)~7月17日(木) 漢字、篆刻、刻字、前衛部門

## ■関西展 第1会場=8月6日(水)~8月10日(日) 京都市美術館

第2会場=8月6日(水)~8月10日(日) 日図デザイン博物館

## ■四国展=8月12日(火)~8月17日(日) 愛媛県美術館南館

## ■中国展=8月19日(火)~8月24日(日) 広島県立美術館県民ギャラリー

## ■北陸展=8月24日(日)~8月28日(木) 富山県民会館

## ■東海展 第1会場=8月26日(火)~8月31日(日) 愛知県美術館ギャラリー

第2会場=8月26日(火)~8月31日(日) 名古屋市市民ギャラリー栄

## ■東北仙台展=9月12日(金)~9月17日(水) せんだいメディアテーク

## ■北海道展=9月24日(水)~9月28日(日) 札幌市民ギャラリー

## ■役員展=9月24日(水)~9月28日(日) 大丸藤井セントラルスカイホール

## ■東北山形展=10月9日(木)~10月13日(月) 山形美術館

## ■九州展=11月11日(火)~11月16日(日) 福岡市美術館



- 出品者
- 木村船翠 佐藤葉扇
  - 半田藤扇 石井明子
  - 下谷洋子 飯高和子
  - 砂本杏花 尾形燐鼎
  - 小竹明峰 小林琴水
  - 小伏小扇 青柳明華
  - 川島舟錦 加藤眺溪
  - 太田蓮紅 香川倫子
  - 大井美津江
  - 平岡千香子
- (本院関係 18名)